地域科学部・研究科自己点検評価書【平成27年度】

項目	取組内容(成果、課題など)	根拠資料	
基準4 学生の受入 4-1 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)が明確に定められ、 それに沿って、適切な学生の受入が 実施されていること。 4-2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。	 入学者選抜の改善に繋がった取組 ○学部・大学院ともに、アドミッション・ポリシーは適切に定められている。 学部においては、アドミッション・ポリシーに沿って、小論文と面接を重視し、アドミッション・ポリシーに沿った内容が出題・対応がなされている。研究科においては、アドミッション・ポリシーに従い、多様な分野の入学試験問題を出題している(資料1、資料2)。 また、昨年度に引き続き、2015年度入試委員会において、高校別の志願者数、後期日程の併願校、入学辞退者の併願校、9年分のセンター試験の得点の比較を調査した(資料3)。 	資料1:学部・研究科 募集要項(アドミッションポ リシー抜粋) 資料2:研究科入試出 題科目 資料3:入試分析データ	地域科学部・
	○学部の入学者は入学定員の 1.08 倍であり、適切な数である。研究科の入学者数は入学定員の 0.9 倍であり、定員割れとなっているが、ほぼ適切な数である。		研究科
基準 5 教育内容及び方法 5-2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。(学士課程) 5-5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等(研究・論文指導を含む。)が整備されていること。(大学院課程)	単位の実質化を図るための取組 ○1年時前期から卒業論文作成まで一貫して助言教員、指導教員が決まっており、きめの細かい指導がなされている。基礎セミナー、専門セミナーなどは選択時に志望理由書を書き、専門を決めないまま大学に進学した学生も多い中、学生が自分の専門を考える絶好の機会となっている(資料 4)。学生が社会の様々な活動を体験する「社会活動演習」や、学部で学んだ内容をさらに現実の社会で調査・発見する「地域学実習」も全員必修で実施している(資料 5、資料 6、資料 7)。 ○国立大学の地域学系学部・大学等連携協議会(岐阜大学・北海道教育大学函館校・鳥取大学・徳島大学が共同実施)「インターユニ・フィールドワーク・プログラム」について、今年度は郡上市での地域学実習の一部をベースとして、移住・定住(中山間地域、小都市)、高齢化、獣害対策の調査を実施した(資料 6)。 ○地域科学研究科では、社会人、留学生が半数を占め、多様な院生が多様な研究を実施しているが、1 学年の定員 20 名に対し、教員約 40 名で、大学院生一人ずつに指導教員が研究指導計画書を作成するなど、個人別のきめの細かい指導を行っている(資料 9)。	資料4:基礎セミナー・専門セミナー 資料5:FOREST2015(社会活動演習・地域学実習) 資料6:社会活動演習報告書(冊子) 資料7:地域学実習報告書(冊子) 資料8:IFP2015報告書(冊子) 資料9:研究指導計画書	の取り組みを示すボンチ絵(公表用1枚)

項目	取組内容(成果、課題など)	根拠資料
基準6 学習成果 6-1 教育の目的や養成しようと する人材像に照らして、学生が身に 付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。 6-2 卒業(修了)後の進路状況等から判断して、学習成果が上がっていること。	 学習成果の向上に繋がった取組 ○本学部の特色でもある専門セミナーについて、検討・改善するために、学部 2年生を対象とした「専門セミナー選択に関するアンケート」を行った中で、専門セミナー選択に係る方法の再検証以外に、学生が専門セミナー選択過程での学びについても確認した(資料 10)。 ○授業評価、卒業時・終了時のアンケートでもセミナーや研究指導は高い評価を受けているし、講義科目もおおむね高い評価を受けている(資料 11、資料 12、資料 13)。 ○修了生に対し、「地域科学研究科における教育内容および修了者のキャリアパスの実態に関する調査(修了者調査)」を実施し、その結果を教務厚生委員会において、共有した(資料 14)。 	選択に関するアンケート結果 資料 11 H27 前期授業 評価アンケート集計 結果 資料 12: H27 卒業生アンケート集計結果 資料 13: H27 修了生アンケート集計結果
基準8 教育の内部質保証システム 8-1 教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備さ、機能していること。 8-2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。	 教育の質の改善に繋がる取組 ○教育研究個人報告書(「教育」部分をリフレクションペーパーとして使用)を全教員が作成し、全教員で授業の改善に努めている(資料 15)。 ○本学部の教育に関するFDを2回開催した。 ・学部2年生を対象に「専門セミナー選択についてのアンケート」を行い、その結果を持って教員等による検討会を実施した。その後、アンケート結果及び検討会内容により、「専門セミナー選択に関するFD」を実施し、学部内教員での情報共有及び専門セミナーのあり方を再検討する場を設けた(資料 16)。 ・今後の入試改革に備え、県内教員を講師に招き、「高大接続システム改革に関するFD」を実施した。高校側の意見を聞き、今後の入試改革への課題点等を再確認した(資料 17)。 	ションペーパー 資料 16: 専門セミナー 選択に関するFD資 料 資料 17: 高大接続シス

地域科学部・地域科学研究科の学生受入れ、教育の取り組み

学生の勉学意欲の向上、論理的思考力、課題発見力の向上などが大学生基礎力調査や基盤的能力調査で明らかになっている。

大学での学び たい学術分野 が決まっている 受験生

大学での学び たい学術分野 がまだ決まっ ていない 受験生

両方とも大歓迎

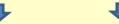


入学試験

小論単現 推薦=以外の 入試は全て小 論文を課す (推薦=でショー ポリシーに 従って面接を 実施)

1年前期

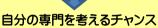
『初年次セミナー』 『社会活動演習』 自分で専門分野を 多様な活動の中か 考えて選択する ら自分で選択する



自分の専門を考えるチャンス

2年前期

『基礎セミナー』 1年後期のうちに選択し、 志望理由書を再び書く



3年前期

『地域学実習』 地域の現場に出て、調査・ 分析・成果発表を行う

自分の専門を社会に生かす

4年

多様な 就職先

Start

1年後期

『基礎セミナー』 前期のうちに選択し、志望理由書を書く



- 複数回のFD実施により学生支援のあり方や学部の状況共有 ⇒ 学部全体の教育の質を高める
- 授業評価や卒業生アンケート集計結果の教員へ報告 ⇒ 教員個人の授業・学生支援の改善を促す
- 学生による授業評価の高い講義を教員へ公開 ⇒ 客観的に個人の授業を見つめ直す場の提供
- 数値に基づいた入試分析 → 受験生の動向を把握し、学部の未来を考える
- 専門セミナーのあり方について、適宜検討·改善 学部の特色·強みの保持に努める

1年からのセミナーを中心とした学生の能動的学びを重視する教育により論理的思考力・課題発見力が向上



<u>卒業論文</u>

自分で課題を見つけ、探究・まとめる

学部進学者や社会人、日本 人や留学生が受験

多様な分野の入学試験問題 により、多様な人材を獲得

地域科学研究科

- ●研究科生毎に指導教員が 責任を持って研究指導計 画書を作成し、きめ細か な指導を実施することに より専門性を高める
- ●多様な専門分野の講義開 講により、幅広い関心に 合わせた履修が可能

2年後期から卒業まで

少人数制の専門セミナーの中で発表や討論することにより、自ら学ぶ

● 1年前期から4年時の卒業論文まで、常に助言教員、指導教員が存在
 ● 初年次セミナー(1年前期) ⇒ 基礎セミナー(1年後期) ⇒ 基礎セミナー(2年後期) ⇒ 専門セミナー(2年後期から) ⇒ 卒業論文

Star